





























子どもを見つめて1世紀—ガジュマル—

大地にしっかりと根を張り、四季を通して緑の葉を広げているわたしの姿を見て、人々は「日本一」と言っている。わたしは、明治31年、国頭小学校第1回卒業生として植えられた。その後、数回にわたる敷地の拡張工事が行われた。最初の拡張工事の時、わたしは危うく撤去される場所であったが、地区の先人、先田先業翁の意見によって命びあいをし、現在地に残ることになった。それ以来1世紀の間、わたしは、国頭小学校に入学しては勇気を持って行く元気な子供たちの姿を眺め続けてきた。中でも一番うれしいのは、子供たちの腕がきらきらと輝く緑陰読書、明るく歌の聞こえる緑陰音楽会、活発に意見を交わす緑陰集会などの子供たちの姿を見るときである。

わたしは、心の通い合うこの学校で、子供たちの大きな夢をばくくむためには、いつまでもいつまでも伸び続けたい。

シンボルツリー
日本一のガジュマル

























フーチャ (潮吹き洞窟)

フーチャとは、隆起サンゴ礁が荒波で浸食されてできた「潮吹き上げ洞窟」の事です。季節風や台風時には20~70mも潮を吹き上げ、天高く飛び散った水流が雲霧状となって農作物に大きな被害をもたらしたため、昭和38年、4箇所のうち3箇所を破壊しました。被害の少なかった現フーチャだけが観光資源として残されています。「飛び立つ波は8丈余、国頭フーチャの奇観」と昔の人が歌ったように、潮吹き上げの様は壮観です。

The Fucha (Spray Cave)

Tidal spray caves are formed when the coral cliff is eroded by the waves, these are called Fuchas in the local dialect. Strong seasonal winds or typhoons can send spray from the fuchas from between 20m to 70m into the air. A mist forms and this can cause a lot of damage to local agriculture. There were originally four fuchas, however three were destroyed in 1965, because of the damage they caused. The remaining fucha which was the least harmful was left as a tourist spot. The fucha is quite spectacular. The fucha here appears in an old song: "The spray reaches as high as 8 jo (20 meters), the thrilling sight of Kunigami fucha."

“富加” (海浪喷射的洞窟)

“富加” (本地方言音译) 是珊瑚礁隆起的珊瑚礁受海浪激进的侵蚀而形成的“海浪喷射的洞窟”。刮季风或台风时，海浪就从洞窟低下往上喷射出20米至70米高，往高空飞溅的水流好似云雾铺天盖地，给农作物带来了巨大的灾害。为此，1963年本町特将此处“富加”中的三处摧毁掉，而仅保留受灾灾害较小的现存“富加”，作为旅游景点供游客参观。

“海浪激起八丈，国头富加呈奇观。”先人们赞美“富加”的诗句，描绘出了“富加”喷射时蔚为壮观的景象。

この案内板は、国頭自然センターから近く(等法)公園管理課の協力を得て作られたものです。
This information board is made with subsidy from the Lufury P&A Campaign of Japan Center for Local Autonomy.
本案内板の制作費は「(財)国頭自然センター」が国頭自然センターの協力を得て作られたものです。





















岬大明神の由来

明治の代、先田先澄と田中松島が、クルマの海の沖で、光輝いている石を見つけて、アダンの下に安置した。数日後の旧暦十五日に先澄が、その石を枕にして潮待をしていた。すると、夢うつつの中であなただに大漁をさせてやろてある。今日は、あなたに大漁をさせてやろう。しどのお告げを受けたので、半信半疑ながら漁に出たら、本当に大漁になった。このことを聞いた村人たちは、それは神石に違いないし、いつて、集落内のメー溜池の土手に安置し、旧暦の十五日に、お神酒とお米を供えて、参拝をするようになった。その頃、国頭は不作が多かったが、この神石を祭るようになって、豊作が続き、生活が楽になったという。

数年後、岬原の神は岬原で祭ったほうがよいし、このこと、現在地に遷御した。日露戦争勃発以降、出征兵士の武運長久や海上安全祈願の参拝者が多くなり、護国の神として重要な役割を果たした。

昭和五十年（五十七年）に、沖永良部相撲協会主催の奉納相撲大会が開催され、多くの参加者で賑わった。

地域の人々の信仰心が高まるにつれて、土台の政祭や鳥居の建立が行なわれ、御神名も「久留磨照龍鑑嶽岬大明神」とした。

昭和六十年頃より拝賀式が行なわれ、地域の守り神として信仰されている。

平成二十年二月二十一日（旧暦一月十五日）

設立委員会
国頭字































































